

地球を 読む

米国でのトランプ政権の発足、英国の欧州連合（EU）からの離脱、欧州での極右勢力の台頭など、世界の政治が大きく揺れている。それぞれの国で起きていることには違った要素も多いが、共通しているのは、グローバル化と格差拡大の問題である。



伊藤 元重

学習院大学教授

市場経済と格差

「民主主義」万能ではない

れるアパラチア山脈に近い地域で、鉄鋼や自動車などの製造業が衰退を続け、住民たちを直撃した。厳しい状況はラストベルト出身の若者、J・D・ピンス氏のベストセラー「ヒルビリー・エレジー（哀

歌）が見事に描写している。産業基盤を失った地域の貧困と将来への絶望は、私たちの想像を超える。そうした人たちの投票が、保護主義を訴えるトランプ政権の誕生につながった。

グローバル化とは、市場集中させ、大衆は相対的に貧しくなりかねない。

「民主主義」は、すべての国民に対して一人一票を与えている。国民の半分以上が市場経済と格差拡大の衝突と読み替えてもいいだろう。

取り戻す」と主張した黒人政治家が大統領になるが、独裁者となり、彼に票を投じた国民を苦しめる。結果的に、国民の不満と「民主主義」が政治的にうまく利用されてしまう。

経済が国境を超えて拡大したものだ。その意味では、グローバル化と保護主義の衝突は、市場経済と格差拡大の衝突と読み替えてもいいだろう。

市場経済は、しばしば所得や富の格差を広げる。ウ

「民主主義」は、すべての国民に対して一人一票を
エイミー・チュア教授の著書「富の独裁者」が、それを的確に指摘している。

トランプ政権の掲げる政策が、ラストベルトの人たちの生活の改善につながる可能性は低い。関税を引き上げ、企業の国外への投資をけん制する保護主義的な政策が、ラストベルトでの雇用を増やすとは考えられない。複雑化したグローバル経済は、単純な政策でコントロールできる代物ではないのだ。

*この記事・写真は読売新聞社の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。

〈2面に続く〉

伊藤元重氏 1951年生
まれ。米ヒューストン大助教
授、東大教授などを経て20
16年4月から現職。著書に
「東大名物教授の熱血セミナー
―日本経済を「見通す」力―
「経済大変動」など。

最近、中国の方が、市場経済のアクセルを思い切り踏み込むことができています。

中国でも格差は拡大し、様々な形で暴動やデモなどが起きていると報道されている。それらは投票という形を取らない「民主主義」の姿である。多くの住民が格差拡大に不満を持って、投票以外の形で反対運動が起り得ることを示す。

長い歴史を持つ欧州諸国は、市場経済の拡大と民主主義の矛盾を解消する努力を続けてきた。英国などでは、産業革命で経済が大きく成長すると、多くの労働者の抗議活動や暴動が起きた。こうした動きが、社会の不安定化につながらないための制度設計が求められたのである。

格差是正のためにポイン
トとなったのが、所得分配
政策や社会保険制度だ。失
業者を守る雇用保険制度が
整備され、無償の教育サー
ビスが提供された。医療や
年金などの社会保障制度も
確立した。累進課税の導入
により、高所得者から低所
得者への所得移転が行われ
てきた。

その中で、特に重要な
は教育である。貧しい人た
ちにも教育の機会が提供さ
れることで、貧困や格差が
固定しない社会が実現する
のカーネギーメロン大学の
存在が大きい。グローバル
化に対応できる力を育てて
いくためにも、教育は重要
な意味を持つ。

貧困の固定防ぐ教育必要

持てないことが、当面の貧
困以上に深刻な問題として
記述されている。世代を超
えて貧困や格差が固定する
ことが避けられるなら、多
くの人がグローバル化の恩
恵を強く実感することがで
きるはずだ。

市場経済と格差の問題
は、今後の日本の経済政策
を考える上でも重要な。国
民皆保険で全ての国民に医
療の安心を与え、公立学校
が安い費用で若者に優れた
教育を受ける機会を提供し
てきた日本の制度は、米國
のラストベルトと比べると
優れていたように見える。

しかし、日本の制度が今後
も維持できるのかどうか、
確信が持てないという人は
多いだろう。

財政的な制約で医療、年
金、介護の制度が圧迫され
ている。子供の貧困問題が
深刻に語られる中で、旧来
の教育制度にほころびが見
えている。高等教育が、技
術革新や社会の変化に対応
できなくなってきた。

就職氷河期世代で非正規
雇用が増えたことに象徴さ
れるように、労働市場にも
ひずみが広がっている。市
場経済やグローバル化の恩
恵を十分に享受できるよう
にするには、格差の固定化
を是正したり、社会保障制
度の強化に取り組んだりす
る必要がある。

日本は、テフレからの脱
却を政策の最重要課題にあ
げてきた。そのためには、
市場経済を最大限に活用す
ることが不可欠で、グロー
バル化にも正面から向き合
ってきた。今後、そうした
流れをさらに加速できるよ
うに、市場経済の安全装置
も拡充していかなくてはな
らない。

*この記事・写真は読売新聞社の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。